

Topic 1

新型コロナウイルス感染症に伴う 静岡大学の対応

■ 学生を支援する取り組み

学修支援

- ① 4月30日からすべての授業で在宅（オンライン）授業を開始し、早期から学修機会を確保しました。
- ② 6月8日からは感染防止対策が講じられていることを前提に、体育や語学、実習など一部の授業で対面授業を開始しました。
- ③ 自宅にオンライン授業を受講する環境のない学生などのために、空き教室を開放しています。



オンライン授業を受ける学生のために空き教室を開放

- ① 「就職相談室」を対面型からオンラインに変え、キャリアカウンセラーに相談できる体制を整備しています。
- ② 開催を予定していた就職ガイダンスのうち、動画配信が可能なものを大学教育テレビジョンで配信しています。

進路・就職 支援

学生生活 支援

授業料免除や貸付を実施

- ① 家計が急変した世帯の学生で、免除基準に該当した場合は、通常の免除枠と別に優先して授業料免除の対象になります。
- ② 新型コロナウイルスの感染拡大で経済的に困窮する学生のため、静岡大学未来創成基金の事業として、必要な資金の一時貸付を実施しています。

静岡大学未来創成基金の貸付金
【支援対象】100名を予定
【貸付金額】10万円
【利 子】無利子
(2020年9月18日現在)

情報発信

- ① 本学の感染症対応を集約したポータルサイトを設置し、現況に応じた正しい情報を一元化しました。
- ② 在宅授業に関するワンストップサイト（緊急対応サイト）を設置し、週末でも「よくある質問」に回答するチャットボットをテスト導入。 学部の特性に合わせた情報は学部ホームページで発信しています。

課外活動

- ① 学生の健康・安全のため、「静岡大学課外活動等活動指針（新型コロナウイルス感染症対策）」を策定し、状況に応じ随時見直ししながら、課外活動を行っています。
- ② 本学団体が主催するイベント、大会及び試合、合宿、学外への課外活動施設の貸し出しは原則中止です。

■ 入試広報に関する取り組み

オンライン 相談会

全国初の県内国公立4大学連携による高校生向けオンライン進学説明会・相談会が、静岡大学全学入試センターの呼びかけで実現しました。例えば、群馬県から参加した高校生の「理系から文系に変えたのですが、経済学以外に数学を活かす学部・学科はありますか」という質問には、「人文社会科学部なら社会学科で活かせます。 情報学部の行動情報学科という道もありますよ」とアドバイスをするなど、受験生の多岐にわたる悩みに応えました。 担当の雨森聡准教授は「普段接触できないエリアにも情報発信ができた。 コロナ禍で他大学の動きが活発ではない6月段階に開催されたことに感謝の声も多く寄せられた」と成果と意義を語りました。



高校生・受験生対象の
進学説明会・相談会
【開催日】6月28日
【申込数】633名
高校教員対象の入試説明会
【開催日】6月24日、25日
【申込数】108校

オープン キャンパス

今年の夏季オープンキャンパスは、対面式ではなく、動画を中心にオンラインで実施し、各学部・地域創造学環が特設ウェブサイトで静大の魅力を伝えました。



静岡大学HP内
新型コロナウイルス
への対応について

このページの内容は、2020年9月18日現在の情報です。 本学の全活動は「新型コロナウイルス感染症における静岡大学活動指針」によって定めており、感染状況によって見直されていますので、最新の情報は、上記QRコードでご確認ください。

Topic 2



SDGs達成に向けた活動を総合的に進める 「未来社会デザイン機構」が始動

本学では、大学の地域貢献力をより高めるために、持続可能な開発目標「SDGs (Sustainable Development Goals)」の達成に向けた活動を総合的に進める体制を構築し、多様性に満ちた未来社会の構築を目指した分野横断的な教育研究を推進する上での核となる組織として本年4月に「未来社会デザイン機構」を設立しました。

同機構には、防災・減災社会の実現を目指す既存の「防災総合センター」と地域人材育成や地域課題解決に取り組む既存の「地域創造教育センター」を再配置すると共に、5つの部門(ESD・国際化推進、法実務、ダイバシティ推進、環境変動適応、生物資源高度化利用)から構成する「サステナビリティセンター」を新たに設置し、持続可能な社会の実現に向けて、複雑な社会的課題に多面的・戦略的にアプローチし、SDGsの17の達成目標のすべてに組織的・統一的な取組を進めていきます。

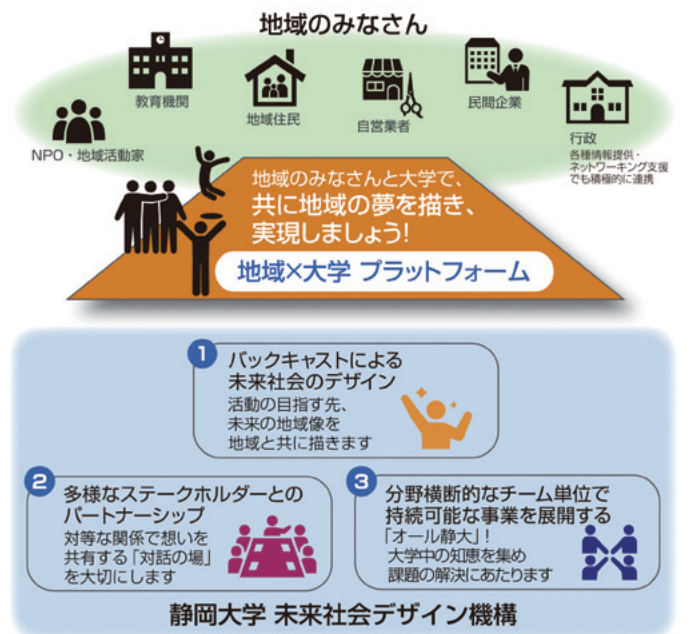


未来社会デザイン機構を設置

地域 × 静岡大学

未来社会デザイン機構は、社会の多様なステークホルダー（自治体・NPO・企業・市民団体など）と共に望ましい未来社会についてビジョンを描き、それを共有し、解決すべき課題を明確にして、複雑な地域課題の解決のために協働します。

そのため、地域のみなさんとの徹底的な対話を重視し、「支援者－被支援者」の図式を超え、地域コミュニティと対等なパートナー



SDGs (エスディーゼス) とは：持続可能な開発目標

2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない (leave no one behind)」ことを誓っています。

シップを築き上げます。 課題解決に向けては、文理融合の研究領域横断的なチーム「オール静大」で構成し、多面的・包括的な解決アプローチを採用します。

持続可能な社会とすべての人のウェルビーイング(幸福)を目標に、多様なステークホルダーとの対話を進め、共創的なパートナーシップを確立し、未来社会を共にデザインします。

東部サテライト「三余塾 (さんよじゅく)」

2020年7月、伊豆半島の中央部、伊豆市青羽根に未来社会デザイン機構が運営していく静岡大学東部サテライト「三余塾」を設置しました。「三余塾」は幕末期の伊豆松崎に土屋三余が開設した塾で、明治日本を支えることになる多数の人材を育てました。その精神を受け継ぎ、その名を東部サテライトの副称としました。 人と人との出会いと学びと協働の場を提供・運営していきます。



旧狩野幼稚園舎を東部サテライトとして活用する



東部サテライト開所式

- 協働のパートナーを見つける場 「人と人」「ニーズとシーズ」「プロジェクト同士」を結ぶ
- 学びの場 市民や小中高生に対する公開講座を定期的開催、地域づくりに役立つ講座も提供
- 情報を得る場、仲間に出会う場 新しい出会いや自由な対話があり、出かけやすく居心地のよい場所